

**製品名: RAP1GAP マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81392**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	73.4kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RAP1GAP
別名	RAPGAP; RAP1GA1; RAP1GAP1; RAP1GAPII
遺伝子 ID	5909.0
SwissProt ID	P47736
免疫原	大腸菌で発現したヒト RAP1GAP (AA: 412-660) の精製された組み換え断片。

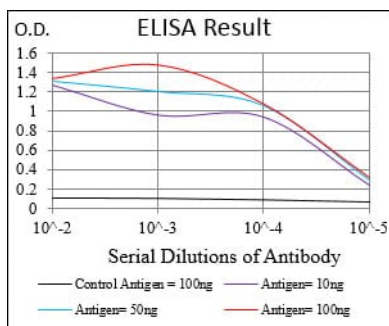
**背景**

この遺伝子は、ras 関連 RAP1 タンパク質の活性をダウンレギュレーションする GTPase 活性化タンパク質 (GAP) の一種をコードしています。RAP1 は、不活性な GDP 結合型と活性な GTP 結合型の間を循環することで分子スイッチとして機能します。この遺伝子産

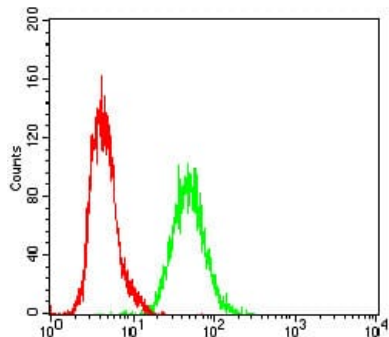
物である RAP1GAP は、結合した GTP の加水分解を促進し、RAP1 を不活性状態に戻します。一方、グアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) などの他のタンパク質は、RAP1 の GDP 結合型から GTP 結合型への変換を促進することで、RAP1 活性化因子として機能します。一般的に、RAP1 などの ras サブファミリータンパク質は、細胞の増殖と分化を制御する受容体関連シグナル伝達経路において重要な役割を果たしています。RAP1 は、細胞増殖、接着、分化、胚発生など、多様なプロセスにおいて役割を果たしています。選択的スプライシングにより、異なるタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。

## 研究分野

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



RAP1GAP マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した A431 細胞のフローサイトメトリー分析。